

「令和4年度 新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」

To advance Tono City Soccer to the next stage.
～ポップ &カラフルに～

課題設定

ブラジルウェアde遠野魅力PR動画

1年 照井 颯人 福田 心 堀川 桐冴 田鎖 大翔

1

課題設定

- 遠野市への観光客や移住者などを増やしたい。
- 動画をとおして遠野高校とブラジル代表の関係を伝えたい。
- ブラジル応援ウェアを着て世界、日本に遠野の魅力を伝えたい。

2

課題解決策

の仮説と

その理由

★現役高校生が遠野の観光名所や歴史などを紹介する動画を撮影すれば見てくれると思う。

★遠野市は全国的にも名前のある市なので遠野市外、岩手県外にも遠野の魅力を紹介すれば知名度を上げられると思う。

★ブラジル応援ウェアを着ることで世界にアピールできるし、ブラジルとの関係も伝えられると思う。

3

仮説検証

方法

1. 遠野の各所に行く
(鍋倉展望台・遠野駅・とぴあ・
こども本の森)
2. スマホで動画を撮る
3. 編集(Capcut)
4. グループラインに送る
5. 評価をもらう
6. 発表

4

仮説検証

結果と成果

<結果>

- 動画をうまく作ることができた。
- 周囲の人の反応は予想以上に良かった。
- 若干、誤字の修正等の指摘があった。

<成果>

- 動画撮影、編集を独学でできた。
- 動画を作ることによって遠野の魅力を伝える工夫をすることができた。
- ブラジル応援ウェアを着て動画を作ることによって遠野市とブラジル代表の関係を発信する意欲が高まった。

5

仮説検証

結果の考察

支持された仮説

○視聴者の反応はすごく好評だった。
考察) 高校生が作成することにより、新鮮さが表現でき、興味関心を高めることができたと考える。

今後検証が必要な仮説

○動画で遠野市の魅力を紹介し、知名度を上げる。
○ブラジル応援ウェアを着て、遠野市とブラジルとの関係性を伝える。
考察) 動画視聴が限定的で公開できなかったため、効果測定ができていない。

6

課題解決策

仮説の見直しと

仮説検証方法の

評価

<見直し>

- できるだけ動画を公開し、多くの人に見てもらえるようにする。
- 高校生であることを表現したいので、ブラジル応援ウェアの他に遠野高校生であることをPRできる服装をする。
- 遠野高校の魅力を紹介する動画も作る。

<検証方法の評価>

今回の探求テーマ設定と課題解決策は進めることができたが、視聴者が限定的だったため効果測定ができなかった。

次回は、検証方法を見直し、効果測定ができるように工夫をしたい。

7

1年間の 探究活動を 振り返って

- ・ 動画撮影や主演、編集等をするのが初めてで少し戸惑った部分はあったけれど、無事動画を完成できてよかった。しっかり一年間やり切ることができた。
- ・ 出演者としては、途中で噛んで、撮影側に迷惑をかけたが、遠野市の魅力を伝えたい気持ちで頑張った。
- ・ 動画編集も苦勞した。最終的には自分達なりの動画を作れてよかった。
- ・ またこういう機会があれば、動画作成の面白さを知ったので、次はもっとクオリティーを高くやりたいと思った。

「令和4年度 新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」
To advance Tono City Soccer to the next stage.
～ポップ & カラフルに～

課題設定

東京2020パラリンピック視覚障がい者
5人制サッカーホストタウンのレガシーを残そう



大 小倉悠慎
太 青山唯斗
小田龍空 畠山 颯



1. 課題設定理由



○東京2020パラリンピック視覚障がい者5人制サッカーホストタウンであることのレガシーを残したい。

○ブラジル代表と交流して「楽しかった」で終わってしまうと意味があまりない。

・レガシーとは

英語で遺産、世代から世代へ受け継ぐものを意味する。日本語では後者を指す。

・ホストタウンを継続させる意味

遠野のホストタウンとしての活動計画は、「東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、ブラジルの視覚障がい者5人制サッカーチームとの交流を始め、様々な交流を通じ、共生社会について考え、心と街のバリアフリー化を推進し、共生社会を実現する機会とする。」と、提示されていた。そこから障がい者への偏見や差別を活動を通して減らしていけるような取り組みが必要だと感じた。ホストタウンではなくなってしまうとこれらの出来事や課題が風化してしまう可能性があると思った。これがホストタウンのレガシーを継続させる意味だと思った。

2. 課題解決策の 仮説とその理由

スマホケースにブラジルと遠野
のデザインをして、その売上を
視覚障がい者募金に寄付したい。

・ホストタウンのレガシーを残すことができ、募金
もすることができる。

～何をデザインするか～

パラリンピックブラインドサッカー**ブラジ**
ル代表選手と**遠野サッカー**伝統のペンギン
ユニフォームを組み合わせたデザイン



3. 仮説検証方法



・ 百均で買ってきた透明のスマホケースに自分たちのイラストをデザイン。



・ インターネットで企業に作成を依頼。



・ 風の丘やトピアなどの公共の施設でスペースを設けてもらい販売する。



・ **視覚障がい支援募金に売り上げを寄付。**



・ 予定していた売価と現実

透明のスマホケース（110円）に画材や人件費を考慮して500円弱で売ろうとした。
しかし、発注しようとしたときに業界最安値で670円かかってしまうことが分かった。
このままでは赤字になってしまう = 募金ができない + 活動が続けられない で断念。

4. 仮説検証結果と成果

・ 検証結果

スマホケースの**原型は完成**したが、大量生産することが出来ず、**商品発売には至らな**かった。

・ 成果

今回自分たちで行った方法で**商品を大量生産するには、時間や人、資金などたくさん**の人の手助けや**ものが必要**だった。



5. 仮説検証結果の考察

○なぜ、そのような結果になったのか

おおよその計画は立てていたが企業側の事情や値段を考えずに取り組んでいた。見通しが甘かった。

○何が足りなかったか

物理的なもの

・資金 ・時間

環境的なもの

・見通し力 ・社会経験 ・礼儀

○結論 「全体を通して多くのものが不足していた」



6. 課題解決策仮説の見直しと仮説検証方法の評価



課題解決策仮説の見直し

スマホケースにブラジルと遠野のデザインをして、その売上を視覚障がい者募金に寄付することに再チャレンジしたい。

次へ

最初に一年間の目標、計画を班内で確認する。そして、毎回一日の進行目標を決める。達成できなかった場合は、昼休みなどの空き時間を利用して穴埋めをする。次回の活動には持ち込まない。

評価

アイデアは悪くないと考えるが、進行管理に改善の余地あり。

7. 1年間の探究活動を振り返って



最初の計画から実行まで自分達で取り組んできて、商品を大量生産したり、公に販売したりするのはとても難しいことだと感じた。

しかし、その中でどのようにすれば売れるのか、どのくらいの費用がかかるのかなど大人になってから役立つ社会的な経験が出来たのはこれからの人生の糧になると思うのでとても良かったと思う。

様々な会社や市役所に電話をかけてみて礼儀の重要性を学ぶことも出来た。

